

## 大阪市立本田小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

本校の児童は素直で、概ね良好な人間関係を築けている。これまで全校児童に「自分を大切にする、周りの友達も大切にすること」を意識づけ、人間関係調整力を学年に応じて指導してきた。異学年の関わりも大切にしており、高学年児童が低学年児童にやさしく寄り添う姿も多く見られる。

学校のきまりについては、互いに安全に安心して生活していくために必要なものであることを理解し、きまりを守って生活しようと思う児童が大半を占めている。新型コロナウイルス感染症予防のため活動を制約されたり、児童数が激増し校舎の改修工事等が進んでいったりする中で、児童が安全に生活するためには、環境整備はもちろん児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てることが重要である。

学習においては、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。本校は令和2年度のGIGAスクール構想による1人1台学習者用端末の整備まで、大阪市ICT活用拠点校として、ICTを活用した授業公開や研修等を実施し、ICT活用の中核的な役割を担ってきた。そのため教職員も児童もICTに対して抵抗が少なく、課題解決のためにインターネットを活用して調べたり、調べた内容をプレゼンテーションソフトでまとめたりする力も育ってきている。本校児童の持ち前の真面目に取り組む姿勢とICT活用能力をベースに、これから先の社会や科学技術の変化に対応できる児童を育成するために、資質・能力を育むための学習活動(教育活動)を展開していく必要がある。

体力・運動能力に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、外で遊ぶ機会が減ったこともあり、運動に対して抵抗感をもつ児童が増えている。運動をする機会を確保すること、また、運動を楽しんでいる子どもが増える体育科の授業づくりをしていくことが今後の課題としてあげられる。

健康的な生活をするために必要な「朝食をとる」「同じ時刻に寝る」「同じ時刻に起きる」については、家庭の協力もあり、概ね良好な結果を保っている。保健教育、食育、家庭への啓蒙の3つの側面からアプローチを続けていく。

一部ではあるが、生活状況が深刻化し様々な課題を呈する家庭も年々増えている。近年のグローバル化した社会での保護者の勤労状況は多様化し、それぞれの家庭の経済格差や教育力の格差、文化親和度の格差の広がりを生み出している。また、グローバルイズムは、さまざまな国から転校してくる児童の増加という現象を生み出し、日本語教育のニーズも高まっている。公教育の基礎になる小学校であるからこそ、わたし達教職員はこれらの格差を乗り越え、等しく教育を受ける機会が与えられ、社会に積極的に参加するチャンスを一人一人の子どもに提供しようという決意をもって、学校教育に携わっている。

このような子どもの実態や社会情勢、第3期大阪市教育局基本計画の3つの最重要目標を踏まえ、「健康でなかよくする子、よく学ぶ子」を学校教育目標に設定している。学校教育目標達成のため、「愛と笑顔があふれる学校 ～子ども、教職員、保護者、地域がつながりみんなで学校をつくる～」をめざす学校像とし、めざす子ども像、めざす教職員像を、「自分と周りの人を大切にし、本田小学校のみんなが幸せな学校生活を送れるように自ら目標を設定し、責任をもって行動できる子ども」「子どもの成長を願い、

将来、社会の一員として自分なりの道を切り拓けるために学び続け、協働して学校運営に参画できる教職員」と設定している。

さて、本校教育の課題は大きく2つである。一つは自分と周りの人を大切にし、自他の命を守る力の育成。もう一つは常に変化し不確実で曖昧な時代に、柔軟に対応できる児童の育成である。前者については、多様性を尊重し、児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育てていきたい。自他を大切にするための具体的な取り組みについては、中期目標、年度目標で設定し、毎年見直しを図っていく。後者については、すべての学習の基盤となる資質・能力を育成するための授業実践や教員の研鑽に努めるとともに、芸術・スポーツ・文化・伝統など本物に触れて学ぶ機会を設定し、児童の身体的文化資本を育てていきたい。

**中期目標** (★は全市共通目標)

### **【安全・安心な教育の推進】**

★小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

★年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

★年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

☆令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度【75.8%】より5%上昇させる。

☆令和7年度の校内調査の「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

☆令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

★小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

★小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。

★小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

★小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。

☆令和 7 年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。

☆全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を令和 7 年度調査において、85%以上にする。

### **【学びを支える教育環境の充実】**

★令和 7 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。

★「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90%以上にする。

☆令和 7 年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ★令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- ★年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ★年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校の年度目標

- ☆令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。
- ☆年度末の校内調査の「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合90%以上を継続させる。
- ☆年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合80%以上を継続させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ★令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ★令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
- ★令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。
- ★令和5年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を53%以上にする。

#### 学校の年度目標

- ☆年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。
- ☆令和5年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ★年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、87%にする。
- ★「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

#### 学校の年度目標

- ☆年度末の校内調査の「読書記録の目標（冊数）を達成することができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立本田小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>★令和 5 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 88%以上にする。</p> <p>★年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>★年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>☆令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。</p> <p>☆年度末の校内調査の「友だち一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合 90%以上を継続させる。</p> <p>☆年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合 80%以上を継続させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【2、豊かな心の育成】</p> <p>命を大切にし、仲間を尊重する心と態度を育てる教育活動を実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートで「いじめられたことがある」と回答する児童の割合を前年度比で減少させる。</li> <li>・校内調査「異学年交流の中でみんなの気持ちを考えて動いた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。</li> <li>・校内調査「困っている友だちがいたら助けることができる」の項目について、肯定的に答える児童の割合 90%以上を継続させる。</li> <li>・各種避難訓練の事前指導、ふりかえりを各学級で徹底することで児童が課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する機会をもつ。</li> </ul>	

<p>取組内容②【１、安全・安心な教育の推進】</p> <p>児童一人ひとりが安全に生活を送るために課題意識をもち、自分にできることを考え行動できる力を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内調査「安全に気をつけて生活することができている」の項目について、肯定的に答える児童の割合８０％以上を継続させる。</li> <li>・校舎内(運動場、講堂を除く、登下校時のけがは含む)のけがで保健室に来室する児童１人あたりの回数を前年度比で減少させる。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
年度への改善点	

## 大阪市立本田小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>★令和 5 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。</p> <p>★令和 5 年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。</p> <p>★令和 5 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 66%以上にする。</p> <p>★令和 5 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 53%以上にする。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>☆年度末の校内調査の「体験や見学、鑑賞などを通じて、芸術・スポーツ・文化・伝統などを学ぶことができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 75%以上にする。</p> <p>☆令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>児童が主体的・対話的で深い学びに取り組めるように、全教員が指導力向上に取り組む。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の研究授業・研修会を年間 30 回以上行う。</li> <li>・児童が互いに認め合うために、多様な考えを引き出したり、様々な価値観に基づいて話し合ったりする活動等を年に 3 回以上実施する。</li> <li>・総合的な学習の時間等において、教科等横断的な授業実践を年に 1 回学年で計画的に実施する。</li> </ul>	



<p>取組内容②【４、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>外国語（英語）の勉強が好きな児童を育てるための英語活動を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本田タイム等を活用して、外国語（英語）の活動を週２０分以上実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容③【４、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動に、学校全体・各学で取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な校外活動、地域や専門の人材を招いた学習活動に、各学年で年３回以上取り組む。</li> </ul>	
<p>取組内容③【５、健やかな体の育成】</p> <p>児童が運動（体を動かす遊びを含む）する機会を設定するとともに、区の教育支援事業等を活用して体育の授業力を向上させる。また、健康的な生活を送るため、目標を設定し、取り組める児童を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動として、児童が中心となり、わくわくスポーツタイムを企画したり、区の教育支援事業等を活用して、児童に運動の楽しさを味わわせる活動をしたりする。このような体育的な活動を年３回以上実施する。</li> <li>・年１回以上、保護者に対して睡眠に関して啓発活動を行う。</li> <li>・学期に１回行う健康がんばり週間時に、起床・就寝時刻を記入し生活リズムについて振り返る機会を設け、健康がんばりカード質問⑤「自分で決めた時間にねて、おきましたか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を７０％以上にする。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

## 大阪市立本田小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>★年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、87%にする。</p> <p>★「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>☆年度末の校内調査の「読書記録の目標 (冊数) を達成することができましたか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>日常の学習の中で個別最適な学びや協働的な学びの実現に向け、1人1台端末を活用する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの子どもの可能性を引き出すために、デジタルドリル navima を週 2 回程度活用する。</li> <li>1人1台端末を文房具の一つとして活用できるようにするために、3～5年生でタイピングの練習を週に1回程度取り組む。</li> <li>3～6年生は、教科の学習で週 2 回程度活用する。</li> <li>情報リテラシー教育を計画的に学期に1時間ずつ実施する。</li> </ul>	

<p>取組内容②【８、生涯学習の支援】</p> <p>児童が本に触れる機会を保障するとともに、児童が読書に興味をもち、読書活動への意欲向上につながる取り組みを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年、週に一度の図書の時間を確保する。（時間の確保）</li> <li>・学校司書や図書ボランティアと連携を図り、低学年に読み聞かせを、週に一度以上行うようにする。（自分の知らない世界との出会い）</li> <li>・中央図書館との連携を図り、学習单元に関わる図書の貸出依頼を、学期（前期・後期）に一度以上行うようにする。（目的のある読書）</li> <li>・休み時間の図書開放を週に１回実施する。（機会の確保）</li> <li>・読書記録を作り、子どもの読書の実態を把握している。（実態の把握）</li> <li>・学級書庫の本を年に２回入れ替える。</li> <li>・めざす子ども像に近づけるために、読書に関して自ら目標を設定し、目標に向かって遂行する機会を設ける。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	